

教育・保育理念
 ・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮

令和5年度重点内容
 ・主体性と自尊感情を育む。
 ・しなやかな心と体づくり
 ・小学校と連携し、学びと育ちをつなげる。
 ・地域とのつながりを深める。

園の重点項目
 みたい しりたいたい やってみたい みんなが育ちあう東浅香山こども園

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
主体性と自尊感情を育む	ひとりひとりの子どもの心に寄り添い、情緒の安定を図り、自尊感情を育てる。	・大人との関わりで愛着関係を築くことを土台に園児との関わりを育ててきているか。 ・友だちとあそぶ楽しさをたくさん経験し、良いところを見つけることができるか。 ・自分の思いをだし、相手の思いもきいて友だちの中で認め合うことができるか。	A	今年度初めて、こども園評価の前段階として、2月10日に評価委員4名(自治連合会会長、主任児童委員、民生委員、東浅香山小学校校長)に來園いただきました。園施設の見学と、各年齢のフォトニュースを見ていただき、園の教育保育の様子をお伝えさせていただきました。校長先生からは、東浅香山こども園の卒園児は人との関係がしっかりと築けていて、挨拶がしっかりとできていて感心しています、とお褒め頂きました。他の委員の方からも、丁寧に教育保育をしている様子がよくわかります、とお話しいただきました。次年度より、本来のこども園評価を実施していただく予定となっております。
	発達段階に応じて、子どもが主体的に活動やあそびをしていくことができる教育・保育をする。	・主体的に活動できる教育・保育を展開し、園児ひとりひとりが「みたい」「しりたいたい」「やってみたい」と心を動かして生活や遊びができていくか。教育・保育の過程を保護者に伝える工夫をし、保護者と連携して園児の育ちにつなげることができるか。	A	
	自分を大切に(自尊感情を育てる)、友だちにも認められてつながりの中で育つ。	・同年齢や異年齢の友だちと助け合い、力を合わせることができる仲間づくりができていくか。 ・友だちが認めてくれることで安心し、意欲をもって活動に取り組めるクラスづくりの中でひとりひとりの子どもが自尊感情をもち、友だちとともに育つことができるか。	A	
しなやかな心と体づくり	心の健康と体力の向上を図り、しなやかな心と身体を育てる。	・安全に配慮し、体を動かして遊びたくなるような環境を作り、友だちと一緒に遊ぶ楽しい活動を、育ちのつながりを見通して、計画的に継続し、園児が主体的に取り組めるようにすることで、しなやかな心と体を育てることができるか。 ・ヒヤリハットを見つけた取り組みを重ね、過去の事故事例から学んで情報共有をし、安全教育に取り組むことで、大きな事故を防ぐことができるか。 ・園児が危険に気づき、ブレーキをかけたたり危険を避ける力を身につけているか。	A	
	健康で安全に生活することができるように安全教育をし、環境を整える。	・0歳から大人との愛着関係を育てることを土台に、就学までの6年間を見通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、各年齢の生活やあそびの場面で、園児の行動や言葉の中に学びの芽が見つけられるか。 ・小学校の児童との交流・ふれあいの機会を持っているか。 ・発達過程に応じて、個人差に配慮しながら発達を保障し、園の育ちと学校の学びをつないでいるか。	A	
小学校と連携し育ちと学びを	教育・保育の中で学びの芽を育てていく。	・0歳から大人との愛着関係を育てることを土台に、就学までの6年間を見通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、各年齢の生活やあそびの場面で、園児の行動や言葉の中に学びの芽が見つけられるか。 ・小学校の児童との交流・ふれあいの機会を持っているか。 ・発達過程に応じて、個人差に配慮しながら発達を保障し、園の育ちと学校の学びをつないでいるか。	A	
	園の育ちと小学校の学びがつながるようにしていく。	・小学校の児童との交流・ふれあいの機会を持っているか。 ・発達過程に応じて、個人差に配慮しながら発達を保障し、園の育ちと学校の学びをつないでいるか。	B	
地域とのつながりを深める	地域とともに地域の中で育つ。	・地域とかわる小さなきっかけも大事にしてつながりを深められているか。 ・地域の行事に、園児と職員が参加し、地域との交流を持つことができたか。	B	
	子育て支援の拠点としてつながりを深める。	・地域親子や家庭的保育室などに遊び場所の提供をし、交流を図ることができるか。 ・地域に向けた子育て支援事業の内容でつながりを深めることができるか。	B	
職員の資質向上	職員がチームとして連携してこども園運営をする。	・教育・保育理念や方針、教育・保育課程や年間計画について職員同士が共通理解し、ねらいを明確に実践を楽しく展開することができるか。 ・園児のこと、教育・保育のことをよく話し合い、各職種とも職員間の連携をよくし、園児へのかかわりに活かすことができるか。	B	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
子ども同士が対話を経て課題を解決しようとする姿が少なく、自分の思いや感じたことを言葉にして伝えることが難しい子どもが増えていると感じています。	乳児期はこどもが安心して過ごせる環境となるよう、保育教諭が子どもと愛着関係を築きます。 幼児期は、豊かな活動を体験する中で子どもが話をする時間、子どもの話を聴く時間を作り、対話する力の土台を養っていきます。

園長より
 今年度は特に、「異年齢との関わり」を意識して取り組んできました。2、3年実施が難しかった異年齢交流でしたが、今年度は園庭で体操を一緒にしたり、食育集会や保健指導などができ、様々な場面で共に過ごすことができました。このような経験を積み重ねてきたことで、特に4、5歳児は小さい友だちへの関心が高まり、名前を呼んだり、手をつないだり、簡単なお世話をするなど自然に接する姿が多くありました。また、小さな年齢の子どもも大きな年齢に優しく関わってもらい、憧れの気持ちを持ったようです。「子どもは子どもの中で育つ」子ども同士が互いに与える影響の大きさに改めて気付いた一年となりました。次年度もたくさんの人との関わりを通して成長していく子どもたちを支えていきたいと思います。

